

安田女子大学
現代ビジネス学会誌
2024年度

Vol.13

安田女子大学
現代ビジネス学会

2024 年度 現代ビジネス学会誌 第 13 号 目次

Articles

日本商工会議所簿記検定試験 3 級における貸借対照表上借方表示する 取得原価と減価償却累計額の意義	木村 勝則	1
遂にわが国で実現した寝台バス	水谷 昌義	7
進んだ道を人生の正解とする	木村 勝則	13
現代ビジネス学科（現ビ）での 6 年間	高田 裕	14
虫が感じる環境を「論理的」に想像する	山田 耕	16
公共経営学科を去るにあたって	澤田 光	19

Lists

2024 年度卒業生 卒業論文等題目一覧	21
2024 年度現代ビジネス学会事業実施報告	27

日本商工会議所簿記検定試験 3 級における貸借対照表上借方表示する

取得原価と減価償却累計額の意義

木村勝則

Katsunori KIMURA

安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科

1. はじめに

日本商工会議所簿記検定試験 3 級(以下、日商簿記 3 級)の出題範囲は、貸借対照表では勘定式のみである。報告式は出題されない。貸借対照表資産の部の固定資産などは間接控除として減価償却累計額が借方に表示され、出題される。また、大学の講義などでも勘定式による間接控除による有形固定資産の表示が解説される。しかし、決算整理後試算表や八桁精算表の減価償却累計額は、貸方計上である。この違いに違和感を持ち、なぜ、資産のマイナス勘定である減価償却累計額が日商簿記 3 級の勘定式貸借対照表借方に間接控除で計上されるのか。貸借対照表上で固定資産などが取得原価で計上される学術的な意義を本稿で研究する。

期中で作成される決算整理後精算表上では、減価償却費は費用として借方計上し、間接法で記帳した場合には、減価償却累計額(評価勘定)として貸方計上が通常の記載方法である。決算時の間接法による減価償却費の仕訳を記載すると次のようになる。

(借) 減価償却費 ×××	(貸) 減価償却累計額 ×××
---------------	-----------------

桜井(2023)^[1]は、「減価償却が行われた合計金額を減価償却累計額といい、これを取得原価から控除した残額は、いまだ減価償却が行われていない部分という意味で、未償却残高という」(p. 175)と述べている。さらに桜井(2023)^[1]は、「有形固定資産勘定は取得原価のまま維持され、毎年の償却額が減価償却累計額勘定に加算されていくから、未償却残高は、有形固定資産勘定の残高から減価償却累計額勘定の金額を控除して算定されることになる。貸借対照表の作成には、減価償却累計額を把握する必要があるので、減価償却の仕訳は間接法によることが望ましい」(p. 186)と述べている。

簿記は、企業の経済活動を記録・計算、整理したものであり、コンピュータ会計が普及するまでは帳簿の作成や決算書は、手書きで記載されていた。日商簿記 3 級の問 3 で出題される精算表の貸借対照表欄は貸方で記入する。しかし、コンピュータ会計の進む現代の実務では、決算時精算表の作成は存在せず、その役割は、コンピュータ会計では、使用するソフト上で自動連動する決算整理後試算表が担っている。しかし、決算整理を終え、財務諸表の貸借対照表上では、減価償却累計額は、資産などの価値減少として表示上記録する。減価償却累計額は、貸借対照表の資産項目の間接控除で記載される。減価償却累計額は、資産のマイナス勘定であり、評価勘定を控除された固定資産などの価格で表示する。しかし、取得原価主義会計の枠内で売買目的有価証券などは時価会計などが導入され、時価で表示されるようになった。これらの考え方に対し、石川(2008)^[2]は、取得原価主義会計の配分の典型例である「減価償却のあり方は『究極の変容』従来の会計のあり方からみれば変容の『最後の砦』」(p. 34)と述べている。さらに原(2023)^[3]は、2004 年企業会計基準委員会の指針である財務会計の概念フレームワークの採用する「資産・負債アプローチは、財務会計に大きな影響を与えているため、当然、その記録システムである簿記教育との関係についても検討する課題」(p. 20)であると述べている。

本稿では、取得原価主義会計における減価償却の考え方を先行論文などから考察し、間接法で計上された減価償却累計額の貸借対照表上間接控除式による借方計上を初学者に講義で教授する意義を考察する。

2. 減価償却と減価償却累計額

山下(1965)^[4]は、「固定資産はその使用によって減耗を受けるものと考えられているが、その減耗による減価の大きさを、実地棚卸によって正確に計算することは不可能なことである」(p. 70)と述べている。このように棚卸資産と違い、実地棚卸ではなく、減価償却で仮定計算する。しかし、佐藤(1985)^[5]は、「減価償却の本質は、静態論では固定資産の評価であると考えられていた。また、実質資本維持という観点に立って、再調達原価による減価償却が主張されることもある」(p. 103)と述べているが、それに対し、損益計算を重視する動態論的思考がある。さらに投下資本を回収するという観点から考察する。

木村和三郎(1965)^[6]によると減価償却は、「生産的労働を媒介として、生産の進行に応じてその使用価値物が磨滅するにつれ、その価値はそのまま、生産物へ移転されること、この過程を『減価』と認識すること、ここに事柄の本質がある」(p. 44)と述べ、さらに木村和三郎(1965)^[6]は、「物の磨滅はあっても価値の磨滅はない。価値は生産設備から生産物に移転するだけである。この事実を明確に把握しておくことは、減価償却論の最初の出発点として重要」(p. 44)であると述べている。物の磨滅はあっても価値の磨滅はない。減価償却は、価値の減少ではなく移転しているだけである。井尻(1998)^[7]は、「原価主義の意義を考えてみると、『原価』というものが、それが経営者や投資家の意思決定にどれだけ役に立つかといったことよりも、はるかに深いところで、意義をもっているものだ、ということがわかる。原価が算定できるということは、財の増減がすべて単独に記録されているのではなく、複式簿記の原理に基づいて、ほかの財との『交換』という形で記録されているからそのインプットとアウトプットの関連がつき原価の算定ができるのである」(p. 187)と述べている。原価は意思決定に役立つだけでなく、企業の価値の転換を仮定計算している。しかし、それに対し藤井(1995)^[8]は、「資産の『価値減少』=生産物への『価値移転』という『事実』にもとづく減価償却費の決定(すなわち論者のいう減価償却の『本質』を忠実に反映した減価償却費の決定)が減価償却費のランダムな増減を結果することについては、立ち入った分析的論証をおこなっていない」(p. 57)と述べている。藤井(1995)^[9]は、「最も合理的な減価償却法としては定額法が一義的に選択される」(p. 92)と述べている。藤井(1995)^[9]は、「資産取得者としての企業経営者の期待において『価値』は、『原価』として支出しうる金額の最高値を表しているのである。したがって、最悪の場合でも『価値』によって『原価』だけは回収するという期待に確信がもてたときにはじめて、企業経営者は資産への投資(すなわち資産の取得)を実行する」(p. 94)と述べている。このように貸借対照表に取得原価で記載することは、投下資本を回収することへの企業経営者の決意表明である。

また、沼田(1984)^[10]は、「企業が長期にわたって使用する資産を固定資産という。土地以外の固定資産、たとえば建物、機械、備品など使用または時の経過によってその経済価値が減耗する。この経済価値の減耗は継続的に発生するから、取引として成立せず、よって事業年度内に記帳する機会がない。このため決算において整理記入としてその記帳が行わなければならない」(p. 178)と述べている。このように企業は、継続企業を前提に簿記会計学上の経済取引ではなく、仮定計算として継続的に減価償却が行われる。

沼田(1984)^[10]は、「固定資産の価値の減耗額は、これを現物検査すなわち棚卸によって決定することは困難である。このため一般に耐用年数計算が行われる。すなわち固定資産の使用しうる年数を推定し、その消耗額(原価マイナス残存価格)を年数に割当てて、毎事業年度の費用を計上する。これを減価償却計算といい、その費用を減価償却費という」(pp. 178-179)と述べている。簿記会計学上、減価償却は、使用する年数を推定している。耐用年数が決められている税法との違いである。「原価マイナス残存価格」を推定した年数で配分をしている。これが簿記会計学上の減価償却と減価償却累計額の関係である。では、ここにある「原価」とはなにか。それが取得原価である。

桜井(2023)^[11]は、「有形固定資産の取得原価は、その資産の利用を通じて達成されなければならない(企業会計原則・第三・五)。これに伴い、資産の貸借対照表価額が同額だけ減少する。この手続きを減価償却というが、毎期継続して規則的に行われことから『正規の減価償却』ともよばれ、税務上の特別償却と区別される」(p. 175)と述べている。桜井(2024)^[11]によると表示方法には、「貸借対照表の本体に取得原価と減価償却累計額の両方を総額表示する方法、および本体には減価償却累計額を控除した純額で表示のうえ、控除した減価償却累計額を注記する方法」(p. 185)があると述べている。なぜ、前者の方法が日商簿記3級で採用されているのか。後者は注記であり、初学者には理解が難しいことが一つの要因である。日商簿記3級で採用されている理由は、取得原価主義会計にあると考える。また、黒沢(1986)^[12]も、「固定資産勘定の記録は原価のままに残しておく、毎期の減価償却額は別に減価償却累計額勘定を設けてその貸方に記入し、固定資産の寿命(耐用年数)が尽きて減価償却が完了したとき、この勘定の残高と固定資産勘定の残高とを振替えて双方を帳簿上消滅させる方法をとるのが一層よい」(p. 171)と総勘定元帳における間接法の有用性を述べている。

この「減価償却累計額」がいつ頃に登場したのか、濱沖(2002)^[13]によると、「財務諸表準則(1934年：昭和9年)の貸借対照表第三、固定資産の十七においては『償却累計』の用語が用いられている」(p. 120)と述べている。さらに、1983年9月日本会計研究学会全国大会で論及され企業会計原則注解18の引当金の要件として「将来の費用又は損失とは、企業会計上は通常、将来に発生する費用又は損失であると判断し、郡司(2017)^[14]は、「減価償却引当金を『注解18』に定める引当金に該当しないものとして『減価償却累計額』に修正された」(p. 51)と述べている。さらに新田(2004)^[15]は、「減価償却累計額を以前は、減価償却引当金と表現していた。よって、当時の会計学では、評価性引当金を説明するときに、減価償却引当金にも触れなければならなかった。それが、今のように本質を表す分かりやすい表現に改正された(ただし、「減価償却費累計額」の方が費用の累積額である本質を表し分かりやすい)」(p. 5)と述べている。山下(1965)^[4]は、「減価償却費の大きさは、あらかじめ予想をもった見積計算に基づいたものであるから、減価償却費額を、直接に当該固定資産勘定貸方に記入して固定資産勘定貸方に記入して固定資産勘定を減額することは、事実上適合した処理であるとはいえない」(p. 70)ので減価償却累計額を設定することが合理的であると述べている。このように減価償却は、取得原価主義会計における見積計算である。減価償却累計額は、資産のマイナス勘定としての有形固定資産などの評価勘定である。このような思考から有形固定資産などを取得原価で貸借対照表の借方に記載し、費用の累計としての減価償却累計額を間接控除する意義がある。濱沖(2002)^[13]は、「減価償却を固定資産の再調達資金の確保と考えるならば、積立金又は引当金が相当し、減価償却を固定資産に費用配分すると考えるなら累計額」(p. 117)であると述べている。減価償却は、取得原価主義会計の中での取得原価の費用配分と考える。

次に簿記会計学の学説の理論から貸借対照表上に取得原価を記載する意義を再認識する。

3. 取得原価

企業会計原則第三貸借対照表原則5によると「貸借対照表に記載する資産の価額は、原則として、当該資産の取得原価を基礎として計上しなければならない」と述べている。川村(2023)^[16]によると今日の会計基準でも、「原則として取得原価を基礎として計上されているという『企業会計原則』の立場は、現代でも通用すると評価」(p. 59)できると述べている。

上野(2019)^[17]は、著書『日本簿記学説の歴史探訪』のなかで片野一郎教授の著書を取り上げ、「『簿記精説』および『簿記の手ほどき』を長年、改訂を繰り返してきた著書であり、本書では、これらの片野の簿記理論を知るための研究対象とする」(p. 71)と述べている。このように長年、改訂を繰り返してきた著書によって、簿記会計学における片野一郎学説が簿記会計学の理論として誕生した。

片野(1965)^[18]は、「簿記は財産、すなわち特定の経済主体に所属する有形無形の貨幣価値物の全体に関する管理計算制度であるから、その発展はもっぱら計算すべき財産内容の複雑化に対応してきている簿記の発達を計算内容から考察すると、収支計算・財産計算・損益計算の順序になる」(p.9)と述べている。片野一郎学説の特徴は、財産計算に着目している点にある。簿記は財産の管理計算制度であり、そのため、財産管理上の会計責任の解明機能が重要である^[17](p.72)。このような解明機能、すなわち釈明のためには、貸借対照表の借方に記載される固定資産などの取得原価が解明機能となる。

片野(1965)^[18]は、「企業の簿記がなによりも受託責任会計の機能をはたさなければならないということは、簿記の計算記録が、企業実体が資本主から受け入れられた自由選択制資金の運用の顛末を明らかにする責任」(p.19)があり、取引価額で記録されることが必須であると述べている。さらに片野(1965)^[18]は、「継続企業の会計において、決算貸借対照表の資産の価額についても年度損益計算書の費用の価額についても、各年度を一貫して取得原価(歴史的な原価)をもって評価するのが、会計理論上正しいとされる。それは一体どういう理由によるのか」(p.512)と述べている。その回答に、取得原価は取引の客観的事実を反映するものや期間収益に対応する期間費用は支払額の期間配分であるから取得原価が当然であるという考えがある。片野(1965)^[18]によれば、「本来、企業会計が開設にあたり出資者から資本として自由選択資金を受け入れたという客観的事実の認識」(p.512)があると述べている。さらに会計公準である企業実体の公準からも受託責任会計がある。また、継続企業の公準からも、期末に残った費用性資産を次期へ繰越すために取得原価で貸借対照表に計上しなければならない(pp.512-153)^[18]。継続企業の公準により企業はゴーイングコンサーンとして、企業は、継続することが前提となり、簿記会計学では期間損益計算が行われる。取得原価主義会計が過去計算とする考えに対し、藤井(1995)^[8]は、「取得原価主義会計を、過去とのみ結びつけた会計とみなすことは許されまい。なぜならば、取得原価主義会計のもとでの展開される慣習的利益測定は基本的に、当期の収益・費用と次期以降の収益・費用の区分操作として実施されているからである。かかる区分操作が継続的かつ反復的に実施されているということは、すなわち、当該各操作時点において次期以降の会計期間の前提がされている」(p.49)と述べている。取得原価主義会計において減価償却をすることは、未来事象を認識している。

片野(1965)^[18]は、「会計責任を次の年度に引継いでいくためには、資産・負債・資本・収益・費用の変動の事実を、その取引が設立したときの価格すなわち取得原価(歴史的な原価)で計上しなければならない」(p.513)と述べている。さらに貨幣評価の公準についても片野(1965)^[18]は、「取得原価主義による会計構造は『貨幣の価値は不変である』という会計公準が前提」(p.512)と述べている。さらに桜井(2024)^[19]は、「現代の会計は、貨幣価値の変動を無視して測定額を無調整のまま計算に用いているのであるから、貨幣価値の安定性を仮定していることになる。したがって貨幣的測定の公準は、単なる形式的な前提条件にとどまらず、貨幣価値は変化しないという実質的な仮定をも含んでいる」(p.60)と述べている。商品有高帳の払出単価における先入先出法のように沢山のみなし計算、仮定計算がある。簿記会計学は、貨幣的測定の公準から貨幣価値は不変だと仮定して理論構築されている。

木村勝則(2021)^[20]は、取得原価主義会計は、会計公準と同等の簿記会計学の基礎概念と考え、「取得原価主義会計は、永続的な指導原理である。歪めることのできない、いわば基礎的前提」(p.57)と述べ、取得原価自体が会計公準と同じぐらい簿記会計学で大切な基礎概念であることを示唆し、貸借対照表に取得原価で借方に記入し、減価償却累計額という評価勘定、資産のマイナス勘定で借方に記載することで、貸借対照表上で、取得原価主義会計であることを簿記会計学が無意識にシグナリングを行っている。木村勝則(2011)^[21]は、このような取得原価から間接控除で減価償却累計額が表示されることで「貸借対照表(B/S)の構造は美しい、どのように資金が集められたかという右、資金の調達源泉と、どのような形で資産が形成され、使われているかという左、資金の運用形態」(p.57)を表現して

いと述べている。貸借対照表構造の美しさを勘定式による間接控除による有形固定資産の取得原価が、左、借方運用形態である資産と右、貸方調達源泉である負債・資本を最大限に表現し、理解促進を無意識に日商簿記3級の貸借対照表は、表現している。学習上、勘定式の貸借対照表は、このような理由から取得原価を明示するから理解しやすい。

勘定式貸借対照表において固定資産などは間接控除として減価償却累計額が借方に表示され、出題されるのは、取得原価主義会計であることのシグナリングである。藤井(2025)^[11]によると、シグナリングとは、「逆選択を回避するためには、売り手は商品Aの品質に関する情報を買手手に提供し、自分と買手の間に存在する情報の非対称性を可能な限り緩和することが必要」(p.28)であると述べている。取得原価の記載により、日商簿記3級を学ぶ学生にとって貸借対照表上で取得原価を知らないという情報の非対称性は、軽減される。

4. おわりに

本稿で何を伝えたいのか。日商簿記3級で貸借対照表を勘定式によって運用形態と調達源泉を容易に把握できる。また、有形固定資産などを評価勘定である減価償却累計額を間接控除で記載する方法も、注記に比較すると学生の理解が促進できる。そして取得原価主義会計の中で取得原価がシグナリングとなり、無意識に美しい貸借対照表を表現し、学ぶ学生に伝えているのである。それを決算整理仕訳で、貸方計上した減価償却累計額を貸借対照表の借方に資産のマイナス勘定として書くことに取得原価主義会計の最後のアンカーのように貸借対照表を教えるごとに無意識に簿記を学ぶ初学者である大学1年生に教授していたのである。しかし、これは大切なことであり、簿記会計学は、『貨幣の価値は不変である』という会計公準が前提であることを取得原価が表現している。さらに減価償却は、価値の減少ではなく移転しているだけである。それを表現しているのが、取得原価である。有形固定資産は、棚卸による評価もできない。

貸借対照表勘定式、間接控除による有形固定資産減価償却累計額の表示は、簿記会計学上の取得原価の重要性を大学で学ぶ初学者の学生達に、伝えている。

引用文献

- [1] 桜井久勝 『財務会計講義』第24版, 中央経済社 2023.
- [2] 石川純治 「石川純治駒沢大学教授に聞く『公正価値会計』とは」 『週刊経営財務』, No.2893, 2008.
- [3] 原俊雄 「財務報告の展開と簿記教育」 『簿記研究』, 6(2): 20-27, 2023.
- [4] 山下勝治 『近代簿記論5版』, 千倉書房 1965.
- [5] 佐藤康男 『簿記会計の基礎』2訂版, 白桃書房 1985.
- [6] 木村和二郎 『減価償却論』新版, 森山書店 1965.
- [7] 井尻雄士 『中野勲・山地秀俊編者 21世紀の会計評価論』, 勁草書房 1998.
- [8] 藤井秀樹 「取得原価主義会計における未来事象と利益測定--減価償却を素材として」 『會計』, 147(3): p340-353, 1995.
- [9] 藤井秀樹 「取得原価主義会計における未来事象と利益測定--減価償却を素材として-2完」 『會計』, 147(4): p533-551, 1995.
- [10] 沼田嘉穂 『簿記教科書』再訂30版, 同文館出版 1984.
- [11] 藤井秀樹 『入門財務会計』第5版, 中央経済社 2025.
- [12] 黒沢清 『新講商業簿記5刷』, 千倉書房 1986.

- [13] 濱沖 典之 「会計学上の減価償却論の展開：わが国における費用配分論の展開と定着」 『社会情報学研究』, 8: 105-120, 2002.
- [14] 郡司 健 「阪本安一先生：会計基礎概念の追究と引当金論争」 『企業会計』, 69(1): 49-53, 2017.
- [15] 新田 忠誓 「論壇 分かりやすい勘定科目の必要性-日本簿記学会・簿記教育研究部会「勘定科目に関する研究」での議論を下に」 『企業会計』, 56(6): 788-794, 2004.
- [16] 川村 義則 「資産：基本精神の継承と相対的变化」 『企業会計』, 75(1): 54-61, 2023.
- [17] 上野 清貴 『日本簿記学説の歴史探訪』, 創成社 2019.
- [18] 片野 一郎 『簿記精説』 改訂 11 版, 同文館出版 1965.
- [19] 桜井 久勝 『財務会計講義』 第 25 版, 中央経済社 2024.
- [20] 木村 勝則 「藤井秀樹による取得原価主義会計学説の研究」 『日本経営診断学会論集』, 21(0): 52-58, 2021.
- [21] 木村勝則 「パソコン簿記教育における滋賀県実体企業の経営診断の一考察」 『滋賀大学産業共同研究センター報』 (No.10): 57-58, 2011.

(2025 年 1 月 30 日受理)

はじめに

2025年3月4日、高知発東京行きの夜行寝台バスが営業運行を開始した。これまで、バスは座席について乗車するものであり、夜行バスもリクライニングを倒しても腰の部分で折れ曲がって移動するものであった。どれほど高級なバスであっても、背もたれと座面は120度くらいの角度があった。これが、「夜行バスは疲れる」とされる元凶であった。そこで、高知駅前観光というバス会社が、9年ほど前からフルフラットの寝台の開発に着手し、2024年11月の安全基準の改正(フルフラット座席を備える高速バスの安全性に関するガイドラインの制定)を受けて、このたびの営業にこぎつけたのである。

わが国ではこのような状況であるが、寝台バスは諸外国ではすでに実現されており、1929年の文献[1]にも紹介されていることから、かなりの歴史があるようだ。現在もベトナムや中国、米国などではよく利用されているようで、乗車体験記などもネットに掲載されている([4],[5],[6]など)。

本稿では、ようやく実現した我が国の寝台バスの特徴と、文献[1]に掲載された寝台バスの特徴の分析を試みる。

1. ようやく実現した我が国の寝台バス

これまでのバスは座席について乗車するものであり、豪華さを謳う夜行バスであっても、椅子の背のリクライニングは120度程度であった。そこで一晩を過ごすわけであるから、眠りが浅く、疲労が蓄積してしまう欠点があった。価格と快適さの比較から移動手段を選ぶとなると、経済的に余裕がなく、体力には自信のある若者が利用の中心となっている。



Fig.1 JR ハイウェイバスのプレミアムドリーム号の座席

今般登場した寝台バスでは、この腰の部分の折れ曲がり解消されている。高知駅前観光というバス会社が開発したシートで、2脚の同方向を向いた座席から上下2段の寝台に変換できる仕組みが備わっている。寝台時のサイズは幅48cmで着席時のシート幅と同じで、長さは180cmである。JRの現在の寝台列車の幅は70cmであるが、最初のブルートレインの寝台幅は52cmであったので遜色はない。ただし、列車寝台の長さは196cmであるので、身長大きい場合は窮屈であろう。バス1台にこの座席が12ユニット24席設置されている。



Fig.2 着席シートと寝台の様子 [3]より



Fig.3 実際の車内の寝台の様子 [3]より

進行方向に寝るタイプの寝台をプルマン方式と呼ぶ。このバスも現在の列車寝台も同様である。列車の寝台でも、揺れがあるのでよく眠れないという話はあるが、バスの場合はどうなのであろう。カーブの急さや、高速道路のジョイント部分通過の揺れなど、鉄道以上の振動や加速度がかかるはずである。特に上段の寝台の乗り心地は気にかかる。使われている部材も、安全基準はもちろん満たしているであろうが、細くて弱々しい感じもする。執筆時現在で乗車体験記がネットにも投稿されていない¹ので、判断が難しい。ただし、高知駅前観光が社員およびその家族で行った試験走行では、子供を含む乗車者は皆よく睡眠をとれたという。

寝台装置及びバス車体自体の改良が進み、より快適な環境が提供されることを期待する。

2. 昭和4年の大陸横断乗合自動車便^{トランス・コンチネンタルバス・サービス}

本節では、文献[1]の掲載内容に基づき、1929年当時の寝台バスの実例を記述する。²

この時代のアメリカにおける自動車の普及はすさまじく、1920年以降のアメリカの鉄道旅客収入が路線によっては10～50%も減少しているというなかで、乗合自動車の増加はどの輸送機関よりも増加率が大きかったという記事が、New York Journal of Commerce誌に掲載された。1928年(昭和3年)におけるアメリカ内の乗合自動車旅客数は30億人で、その半数は州を越えての旅行者であった。乗合自動車の総数9万2千台、1日の運転距離は500万マイル(約800万km)であったという。1920年には1万5千台程度であったが乗合自動車がここまで増加し、貨物自動車の増加率をも上回っている。運転区間の短い電気鉄道会社では挙って乗合自動車業を兼業するようになり、全米の367社の電気鉄道会社のうち49社は乗合自動車業に業態を替え、鉄道業を廃止したという。

鉄道には立派な線路と保安装置を備え、安全・高速・大量輸送に優れた輸送機関であるが、自動車のようにどこにでも止まるような融通はきかない。また、鉄道では旅客を運ぶのにその何倍もの重量の車輛を運ばねばならないが、自動車にはその死重が鉄道に比してかなり少ないので、輸送効率を存分に発揮できる(この両者の利害得失をふまえた輸送手段の選択が、すでにこの時期にアメリカでは始まっていたのである)。

2-1. 乗合寝台自動車の詳細

さて、大陸横断の乗合寝台自動車は、W.E.トラヴィスが社長を務める乗合自動車会社が運航するもので、区間はロスアンゼルスから紐育(ニューヨーク)間で、全行程3433マイル(約5524km)である。これはロスアンゼルス～ヒラデルフィヤ間に1か月前から運転していたものを紐育まで延長運転したもので、近い将来のうちにボストンやワシントン迄延長される計画であると発表されていた。これを走り抜くには5日14時間を要し、同じ区間の鉄道に比べて1日多くかかっている(平均時速は40km/hほどとなる)。紐育市^{キャピタル・センター}首府座傍の発着所へ毎月3便が発着している。

¹ ネットにあるのは取材で寝転がった記事ばかりで、一晩寝た体験記は見つからなかった。

² 漢字に振ったルビは文献[1]のまま。丸括弧内は本稿筆者の補足。

ロスアンゼルス～テンヴァ間はサンタフィー^{トレイル}街道(サンタフェ・トレイル)、デンヴァ～セントルイス間は^{ユナイテッド・ステーツ・ハイウェイ}合衆国街道、セントルイス～ピッツバーグ間はオールド・ナショナル街道、ピッツバーグ～紐育間はリンカーン^{ハイウェイ}街道を通るといふ。

車の大きさは長さ34呎6吋(約10.5m)、幅8呎(約2m44cm)、高さ10呎3吋(約3m12cm)、重量1万4千封度(約6.35t)である。重量が軽いのは「飛行機等に使用する硬い合金、高価なる新金属デラルミン」(ジュラルミン)をほとんど全部に使用したからである。そして定員は26人である。

車体前部にモーター(エンジン)があり、上方に運転手席、隣席が展望席となっている。車内は2階建て構造で、客室は1室2人で、車体の両側にある。座席は背面が斜めに傾けられる。読書用の電灯が1座席1個ずつ設備され、車内にはラジオもある。通路は車体中央の1階と2階の中ほどについていて、どちらの階に入るにも2,3歩昇り降りするらしい。向かい合った昼間の座席の背もたれを双方から上に動かして上段の寝台となり、腰掛けている部分が双方から寄って下段の寝台となる、当時の日本の鉄道寝台と同様の仕組みであり、進行方向に前後に寝る。洗面更衣室もあり、洗面台があり水も出る、食用冷水のはいつている魔法罫も備えられているので、「幾昼夜旅行しても事欠かない」そうである。

車内には台所と便所がある。乗務員は運転手と^{ボーダー}給仕と^{シヨージ}事務員兼^{シヨージ}廚夫の3人である。給仕は乗客の身の回りの世話から寝台の世話までする。事務員兼^{シヨージ}廚夫は巧みに空間を利用して造られた^{コムバクト・キッチン}小厨房で料理した^{ホット}出来たて料理を1枚の大盆に乗せて順々に客室へ運んでくれる。

暑い季節の車内の通風は、車体の周囲に設けられた電気扇付の小円窓によって行われ、寒い季節には扇風機によって暖かい空気が車内に行きわたる。

この自動車の特徴のひとつに、「モーターが自在に引き出せる事」がある。モーター、すなわちエンジンを、数本のボルトを緩めて蓋を取り、油・ガソリン・電気などの導線を取り外せば、前方車外に押し出せるようになっているという。このことは、いつでもどこでも、モーターの故障があっても、適切な処置ができで「頗る便利である」。

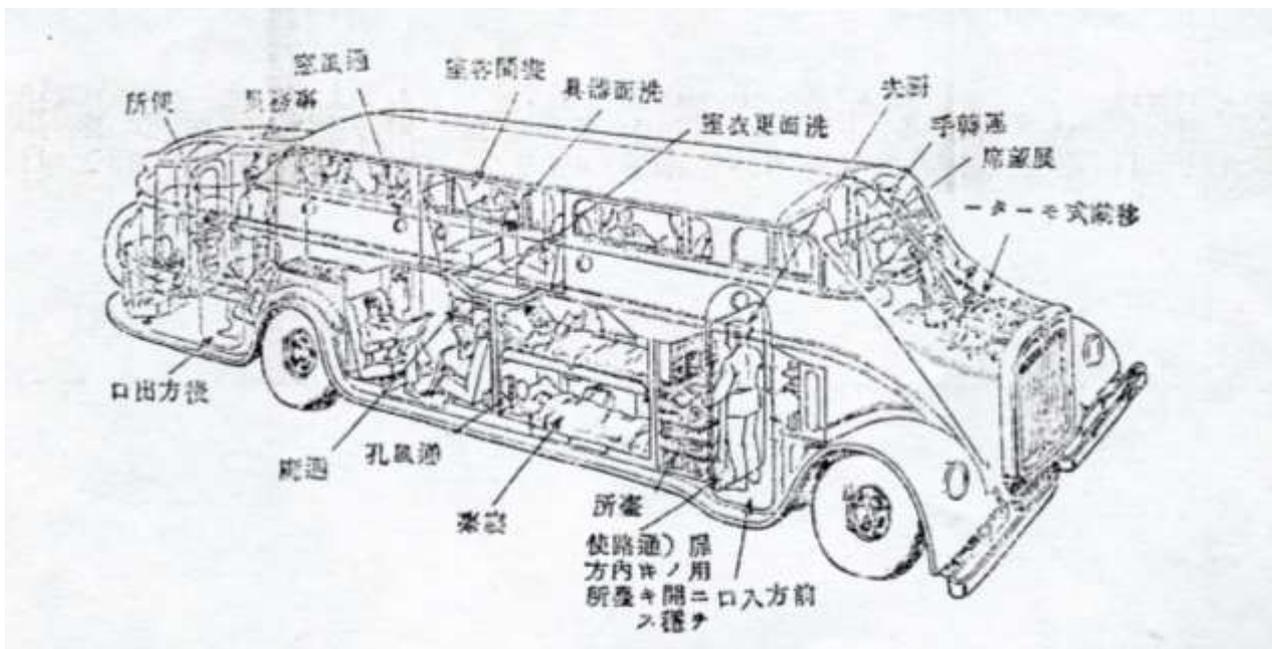


Fig.4 大陸横断寝台バス [1]より³

³ 前方入口扉の説明：通路使用のとき内方に開き台所を隠す

2-2. 乗合寝台自動車に関する分析

ここで紹介されている寝台バスの大きさは、現在の大型バス(長さ 12m、幅 2.5m、高さ 3.5mほど)と中型バス(長さ 9m ほど、幅と高さは大型と同等)の中間程度の大きさである。文献記事に添えられた図では、定員 26 人がどこに収まるのかが不明である。記述の内容から、高知のバス(定員 24 人の大型バス)のように 3 列並びではなさそうである。当時の国有鉄道の 1 等寝台車は長さが 19.5m で寝台数が 18 であったから、1 等寝台の 3 倍の密度で詰め込まれる計算となる。給仕と事務員の待機場所も不明である。

現在の大型バスの総重量は 15t を超えるものが多い。自重 7t もないジュラルミンの車体の耐久安全性も不明である。台枠をはじめ要所には鋼材が使われているのであろうか。

料理も出されるようであるが、昼食だけであろうか。3 食出すのであれば走り続けることもできるが、そうであればかなりの食材を積んでおかねばならない。運転手の食事・便所はどうするのかも不明である。

モーターが自在に引き出せる事はそんな特徴なのであろうか。この時代のエンジン性能では、5 日間以上も走り続けければ故障が当たり前、ということであろうか。

夜も走り続ける車の運転手はどれほど運転してどこで交代するのだろうか、他の乗務員は乗り通すのだろうか。洗面台の給水もしなければならぬ、便所の汚物は 26 人が 5 日も使えばかなりの量になる、食べ終わった大盆はどこで洗うのであろうか、1 日 1 度は長めの休止がなければとても辻褃が合わないことが多い。1 週間走り続けるシベリア鉄道であっても、毎日何度も駅に停車して補給や交代が行われる。

ネットをいくら検索しても写真の 1 枚も出てこない。

以上のことから、筆者の結論は、「この記事で紹介されているバスはまだ計画段階であって、実現していないものであった」とする。

おわりに

日本では無理とされていたフルフラット寝台のバスがついに 2025 年 3 月 4 日高知発東京行きの夜行バスとして営業運行を開始した。地方の企業が地元の工場と試行錯誤を重ねて実現した。何台ものバスを改造して実験できるような大企業でないところが、国の保安基準まで変更させるような新しい試みを実現できたことはまことに喜ばしい。小さな手直しが続けられ、より快適な長距離移動手段として定着することを望む。

諸外国では寝台バスはすでに実現されており、1929 年の文献[1]における実例を紹介したが、記載されている寸法や運行方法が眉唾ものであり、本稿では「絵に描いた餅」と判定した。ただ、そんな昔から寝台の設備されている自動車が考えられていたということは興味深いので紹介した。

ようやく実現した我が国の寝台バスの発展と移動手段の多様化に期待するものである。

参考文献

- [1] 茂木生, 寝台自動車の話, 東京鉄道局運輸月報, 1929.4.25, 10 卷 3 号, pp.198-201.
[2] 北杜夫, どくとるマンボウ航海記—飛ぶ魚、潜る人—, 1987, 新潮社.

《ウェブサイト》

- [3] 高知駅前観光ウェブサイト, kochiekimaekanko.jp/sommeil-profond-lp/. (2025.3.18 閲覧)
[4] 周藤卓也, 移動しながらしっかりと睡眠も取れる寝台列車、寝台バスという旅の手段(中国), gigazine.net/news/20160616-sleeper-train-sleeper-bus/. (2025.3.18 閲覧)
[5] ライフデザインラボ, 2 段式寝台バス、乗客は夜中でもイヤホンなしで音楽、目的地へは 2 時間も早く到着…日本とこんなに違う! ベトナムの夜行バス, www.bushikaku.net/article/78088/. (2025.3.18 閲覧)
[6] Robinson,M., 寝ている間にロサンゼルスからサンフランシスコへ! Cabin の夜行バスはすごかった, www.businessinsider.jp/article/107309/. (2025.3.18 閲覧)

(2025.3.29 受理)

進んだ道を人生の正解とする

木村勝則

Katsunori KIMURA

安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科

朝、5時に目が覚める。高取北のマンション2階の部屋のカーテンを開けるが、まだ薄暗い。窓から黄色と白の車体のアストラムラインが、高架の上を静かに走っている。椅子に座りパソコンをつける。昨夜まで悩んでいた論文を思うままに書き始める。6時にシャワーを浴び、部屋を出る。駐車場の車のエンジンボタンを押す。倉木麻衣の曲が流れる。安田女子大学の門の前の坂道でアクセルを踏み込む。大学の綺麗な芝生をとおり新館建設を眺めながら、指定駐車場に停める。そこから9号館の地下から校舎に入り、5号館のセブンイレブンで120円のコーヒーを買い、食堂をとおり、A棟の地下の2基あるエレベーターに向かう。ここで人生の選択が毎日ある。エレベーターに乗るか、エレベーターの横にある階段で9階の研究室に向かうかである。最初の1年目は階段でのぼる。しかし、2年目からは、昇りは、エレベーターにした。降りるのだけは、階段で続けられた。地下から9階まですべて階段は疲れる。そのあと講義も4コマある日もある。朝は、体力を温存したいと無意識に判断をし、エレベーターのボタンを押し続けた。しかし、運動不足によって、体重が増え続けた。そこで最近、横目でエレベーターを見ながら、階段をのぼる。7階ぐらいで限界がきて、8階では息が切れる。そして9階では達成感と呼吸が出来ないほどの状態になる。この生活の繰り返しも2025年3月末で終わる。安田女子大学での教員としての生活は恵まれていた。ここ5年で著書11冊、論文も約20本の業績ができた。そしてMIで担当する50名の学生全員の卒業も現時点2025年1月末では可能である。全員で卒業式を迎えることを楽しみにしている。

学生時代の友人で逆境に陥った時に「迷ったら行動」という言葉をよく使っていた。彼は行動力があり、大学卒業後銀行に就職するが、すぐにやめ、20代で国家資格に合格し、法律系の事務所を創業する。現在ではその業界で君臨している。彼にとっては、資格が天職であり、進んだ道が正解だった。安田女子大学木村ゼミ生には、日本銀行などの大手有名企業に就職した学生もいる。その反面、1年生で簿記会計学の面白さに気づいて日商簿記検定2級に合格し2年生から毎日、毎日、「およげたいやきくん」の歌のように税理士試験簿記論と財務諸表論の勉強をし、青春の大切な時間を過ごした学生もいる。人生は、毎日、選択と決断の連続である。何が正解かわからないこともある。もしかしたら正解自体がないかもしれない。そこで生きるうえで自分自身が選択し決断したことに迷う。重要なことだから決断が鈍る。その時に行動で突き進む。そして「進んだ道を正解とする」と毎日、自分自身に自答自問する。筆者も6年前約20年間、自ら創業した税理士ITコーディネータ事務所を廃業し、「清水の舞台から飛び降りる」気持ちで大学教員の仕事を選んだ。必死に努力した。努力し続けて呼吸ができないぐらい頑張っただけ、なにもものにもかえがたい達成感がある。筆者のこれからの行動指針は、「自らの良心に従い、事に処し善を行う」である。

安田女子大学で過ごした時間は、筆者にとってかけがえのない素敵な瞬間の連続であった。この素晴らしい場を提供して下さった理事長、8学部18学科の日本屈指の女子大学をつくりあげた尊敬する学長、温かく見守っていただいた学部長、学科長、教職員の皆様、フレンドリーでアイスクリームのピノが好きな学生諸君、早朝から芝生を綺麗に輝かせた方々、論文作成で無理を言った図書館の皆様、美味しい食事をつくって下さった食堂の皆様、毎日、コーヒーを買いに行ったセブンイレブンの皆様。最後のお礼の言葉である。「本当にありがとうございました。感謝しています」そして未来を切り拓く卒業生諸君に直感を研ぎ澄まし「迷わず行けよ、きっといいことがある。木村勝則」

現代ビジネス学科（現ビ）での6年間

高田 裕

2025年3月をもちまして、安田女子大学を退職することになりました。2019年4月に着任してから気づけば6年間の月日が流れておりました。初めての大学教員であり、たくさんの方々から「大学教員としてのやり方」を学びました。大変お世話になりました。関係を持った教職員の方々を思い出すと、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、定年退職まで安田女子大学で働こうと思っていたので、「自分の退職」を本当に残念に、そして寂しく感じております。

この6年間は本当に濃い期間となりました。私事で恐縮ですが、安田女子大学に着任する2週間前の2019年3月に初めての子供である長男が生まれました。この6年間は、私の安田歴、イコール、息子の年齢でもありました。「子育てと仕事の両立」で常に慌ただしい生活でした。初めて大学教員になり、右も左もわからないことに加えて、父親としての責任を感じた6年間でした。直近3年間は息子が安田幼稚園（安東園舎）の園児となり、息子は安田学園に大変お世話になりました。私が退職する2025年3月は息子が安田幼稚園を卒園する時でもあり、親子そろって安田学園を去ることになりました。親子ともども本学の学園訓である「優しく剛く」を胸にきざんで生きていこうと思います。ある時、幼稚園から帰った際に、息子が「やさしく・つよく」の歌(?)を歌い始めました。正直、最初は戸惑いましたが、安田幼稚園（安東園舎）の「温かい雰囲気」「幼稚園の先生方が学園訓に真摯に向き合う姿勢」を思い出し、自然に口ずさむ息子に対して嬉しい気持ちになりました。

現ビでの思い出は語りつくせないなので、最後にお世話になった現ビ学部の方へ一言ずつ伝えて終わろうと思います（日本人らしく年齢順です）。辻先生、いつも温かいご助言をありがとうございます。「正義感」「やさしさ」「説得力のある言動」など辻先生のような大人になりたいと憧れておりました。仁井先生、いつも気にかけていただき、ありがとうございました。仁井先生のようなアクティブなシニアになりたいと思いました。折本先生、授業の中で学生を叱る姿、武田山の登山での姿がかっこよかったです。相澤先生、いつも愚痴を聞いていただき、ありがとうございました。森岡先生、台湾のお茶が本当に美味しかったです。絹谷さん、私が大学になじめるようにいつもサポートしていただき、ありがとうございました。水谷先生、いつも正論を言われている姿が印象的で、かっこいいです。星田先生、教授会ではいつも隣で座り、飲み会にも定期的にご一緒させていただき、本当に楽しい時間でした。清野先生、先生と同じ年に入職できて幸運でした。チューリップ（幼稚園）には本当に惹かれており、息子の入園直前まで安田幼稚園と迷いました。安東先生、入職同期でしたね。当時が懐かしいです。立花先生、先生がいるから現ビがまわっています。いつも尊敬しておりました。再びサーカスにご一緒したいです。段野先生、初年度にゼミやMTを共同でやらせてもらって、教員のイロハを学びました。同志社話も楽しかったです。感謝しています。竹本先生、私と同じ大学の出身と聞いた時は嬉しかったです。恐らく先生が後期課程にいらっしゃる時に、僕は入学している年代です。きっかけは同志社人としてで

すが、その後もかわいがっていただき、ありがとうございました。山田耕先生、先生と共同研究できるレベルになれるよう研究を頑張ります。先生のような研究者になることが目標です。大谷先生、学生たちと同様に2024年度は私も「大谷ロス」でした。大谷先生と一緒に仕事できた2年間は、経研（大学院）時代に戻ったみたいで本当に楽しい時間でした。人生で2回も同じ職場で働いているのも運命に思うけど、また一緒に働きたいね。次に下村さん、お子さんのお話がいつも楽しかったです。下村さんのおかげで現ビが明るくなります。下村さんは本当に学生対応する仕事が天職なんだろうなと思っています。最後に学生の皆さんへも一言、書かせてください。学生の皆さん、学生時代を思い切り楽しんでください。「人生の宝物」が大学にはあります（もちろん安田女子大学にもあります。「学生さんにとって、素晴らしい大学・誇るべき大学」と思います！）。

学部・学科を超えて、お世話になった教職員の方がたくさんおります。薬学科やビジネス心理学科などの同世代の先生方との交流、教職員代表としてかかわった皆様、教務委員・倫理審査委員・キャリアセンター次長などでかかわった皆様、安田幼稚園に子供を通わせている教職員のパパママ会、海外研修引率時にお世話になった方々、日本酒の会の皆様、などなど、本当に書きたい思い出ばかりです。本当は一人ひとりにメッセージを書きたいのですが、しかし紙面がなくなりそうでした。そのため、現ビの紀要である本誌では、現代ビジネス学部に所属されている（た）先生方に絞りました。お世話になった皆様に感謝しております。ありがとうございました。また飲みに誘ってください！

2025年4月以降も、引き続き私は故郷の広島市に在住しております（今後も広島から離れるつもりはありません！）。アストラムラインや市内でお会いした際は、これまで通りお話させてもらえると嬉しいです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

虫が感じる環境を「論理的」に想像する

山田耕

大学では単に実用的なスキルの習得にとどまらず、学問としての理論を体系的に学ぶ場です。資格取得や実務に直結する知識も重要ですが、理論を学ぶことで知識の深さ、応用力、批判的思考を養うことができます。では、理論を学ぶ重要性とは何でしょうか。私は、それは以下のことだと考えています。

1. 思考の基盤としての理論：理論は、私たちが知識を整理し、新しい課題に対応するための基盤となります。理論は、単なる知識の羅列ではなく、様々な現象を説明し、予測するための枠組みを提供します。理論を理解することで、私たちは個々の事例を単独で捉えるのではなく、より大きな文脈の中で意味づけ、関連付けることができます。
2. 長期的な視点を持つことの重要性：資格取得や特定のスキル習得は実務に役立つ一方で、その知識が将来的に陳腐化する可能性があります。技術革新が急速に進む現代社会において、昨日まで最新だった知識が、明日には時代遅れになることも珍しくありません。一方、理論学習は、時代を超えて普遍的な知識を得ることに繋がります。例えば、数学や物理学の基礎理論は、何百年も前から変わらず、現代の科学技術を支えています。また、哲学や倫理学の思想は現代社会の課題を考える上で、重要な示唆を与えてくれます。理論を学ぶことで、私たちは短期的なトレンドに流されず、長期的な視点を持つことができます。このように、理論は、変化の激しい社会を生き抜くための羅針盤となります。理論を学ぶことで、私たちは将来の変化を予測し、それに適応するための力を身につけることができます。
3. 広い視点と創造性の育成：現代社会の課題は複雑化しており、単一分野の知識だけでは解決できないことが増えています。例えば、ビジネスでは、文化・経済だけでなく倫理的な側面、AIなどの技術的な側面といった様々な分野の知識を統合して、戦略を立てる必要があります。大学の講義で多様な理論を学ぶことは、異なる分野の知識を統合し、新しいアイデアを生み出す力を養う上で重要です。このように、理論学習は、学際的な視点を持ち、創造性を発揮するための土台となります。理論を学ぶことで、私たちは既存の枠組みにとらわれず、新しい発想を生み出すことができるようになります。
4. 多様な価値観があることを知る：人は往々にして、自分の価値観や原則を基準に、物事の良し悪しを判断してしまいがちです。それはある程度、自然なこととも言えるでしょう。しかし、だからといって他の考え方を理解しようとしなくてよいというわけではありません。異なる価値観に出会ったときこそ、「嘲笑せず、嘆かず、呪わず、ただ理解する」(スピノザ)という姿勢が大切です。理論を学ぶことは、こうした寛容さや理解の心を育てる大きなきっかけになります。グローバル化が進み、多様な価値観を持つ人々と関わる機会が増えている今、このような視点は

これまで以上に重要になっていくでしょう。

ここで、一つ理論を使った思考実験的な話を展開したいと思います。物理学の一分野に流体力学という分野があります。その中で基盤を成す重要な方程式があります。それはナビエーストークス方程式と言って、水や空気などのいわゆる流体の運動を記述する基礎的な方程式です。大部分の流体はこの式に従います。つまり、この式を解けば（正確には連続の式とエネルギー方程式に加えて初期条件と境界条件を与えなければいけません）、流体の動きを知ることができます。実際、気象予報ではスパコンを使って、雲の動き、風の流れなどを追って明日の天気予報に活用しています。さて、このナビエーストークス方程式はどのような形をしているのかというと、以下のようになります。簡単のため、ここでは非圧縮流体を考えます。

$$\rho \left[\frac{\partial \mathbf{u}}{\partial t} + (\mathbf{u} \cdot \nabla) \mathbf{u} \right] = -\nabla p + \mu \Delta \mathbf{u} \quad (1)$$

(1)式において \mathbf{u} は流速ベクトル、 ρ は流体の密度、 μ は流体の粘性率、 p は圧力です。難しいと思う方はこういうのがあるのかと思うだけで結構です。さて、物理学者は頻繁に式の無次元化という作業を行います。つまり、平均流速 u_0 、平均均密度 ρ_0 、考えている系の特徴的な長さ L (例えば、室内の空気の流れを考えている場合は室内の大きさなど)といった定数を使い、この式の各量の次元をなくしていくというものです。具体的には、

$$\begin{aligned} \tilde{\rho} &= \frac{\rho}{\rho_0} \\ \tilde{u}_i &= \frac{u_i}{u_{0,i}} \\ \tilde{x} &= \frac{x}{L} \end{aligned}$$

として(1)式に代入すると(1)式は

$$\tilde{\rho} \left[\frac{\partial \tilde{\mathbf{u}}}{\partial \tilde{t}} + (\tilde{\mathbf{u}} \cdot \tilde{\nabla}) \tilde{\mathbf{u}} \right] = -\tilde{\nabla} \tilde{p} + \frac{1}{\text{Re}} \tilde{\Delta} \tilde{\mathbf{u}} \quad (2)$$

となります。この(2)式で、 Re は $\text{Re} = \rho_0 u_0 L / \mu$ で定義されるレイノルズ数と呼ばれるものです。この作業で、重要なのは無次元化すると、(2)式はたった一つのパラメータしか現れないことです。つまり、パラメータ Re の値さえ決めれば、後はどんなものだろうが流れのパターンが決まってしまうということです。この性質により、 Re が変わらないように考えている問題の長さや流速のスケールを変えた模型を作って測定すると、もとの場合の流れの様子がわかるということになります。飛行機や建物の周りの流れの様子を測定するのに風洞実験が有効なのはこの性質のためです。

さて、この理論を使って、虫の世界を想像してみましょう。今、無風の空気(密度 1.2kg/m^3 、

粘性率 $2 \times 10^{-5} \text{Pa} \cdot \text{s}$)の中を人が歩く場合を考えます。ここでは、人の身長を 1.5m、歩行速度 4km/h とします。一方で、小さい虫が無風の空気の中を飛ぶとします。虫の大きさを 1mm で飛行速度は約 2km/h(蚊の飛行速度を想定)とします。そうすると、人の場合と虫の場合のレイノルズ数の差は $Re_{人}/Re_{虫} \approx 3000$ になります。これから、人の周りにできる流れのパターンと虫の周りにできる流れのパターンは違うということがわかります。それでは、虫の周りにできる流れのパターンと同じものを人で作りたければ、どのような流体でなければいけないでしょうか？

それは、例えばマヨネーズ(粘性率 $30 \text{Pa} \cdot \text{s}$ 以上、密度 $910 \text{kg}/\text{m}^3$)で満杯にしたプールの中を泳いだりすると、虫と大体同じような流れのパターンを作ることができます。つまり、虫が空気の中を飛ぶのは、人がマヨネーズプールを泳ぐようなものということになります。そのようなことを考えると、虫はあんがい「う～ん、空気は粘っこいな～」と思っているのかもしれない。我々は普段自分の感覚で物事を判断して、行動してしまいがちです。しかし、理論を使うと虫が感じる環境は我々とはまったく異なるのではないかと思うことができます。

安田女子大学が掲げる「柔しく剛く」を真に身に付けるためには、資格試験や就職に役に立つ知識だけでなく、理論的な知識も必要でしょう。今一度、自戒を込めつつ、理論を勉強する大切さを考え直してみたいです。

参考文献：

各種物性量については理科年表や以下のサイトを参考にしました。

マヨネーズ(a soft, low-fat formulation)の粘度に関しては

https://www.brookfieldengineering.com/-/media/ametektbrookfield/application-notes-2024/viscosity-rheology/rheology_application_note_rsx_rv_hpqa_mayonnaise.pdf?la=en&revision=c1b3fe73-9b69-454b-b1d6-81fc4145c4c1&hash=B444FBFF3FE24607D1236AC73E62F72A 【最終閲覧日：2025年3月6日】、

密度は <http://hypertextbook.com/physics/matter/density/> 【最終閲覧日：2025年3月6日】

蚊の飛行速度は

<https://fumakilla.jp/foryourlife/5/#:~:text=%E6%88%90%E8%99%AB%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F%E8%9A%8A,%E8%B7%9D%E9%9B%A2%E3%81%AF1%E3%82%AD%E3%83%AD%E4%BB%A5%E5%86%85%E3%80%82> 【最終閲覧日：2025年3月6日】

公共経営学科を去るにあたって

澤田 光

「♪～仰げば尊し我が師の恩。教えの庭にもはやいくとせ。思えばいと疾し、この年月・・・」

卒業式でこの歌を歌いながら、公共経営学科2期生の学生たちと過ごした日々を思い返していました。

4年前、私も皆と同様に、初めて安田女子大学公共経営学科に参りました。美しいキャンパスにとっても驚いたのがつい昨日のこのことです。初めて自分の研究室を持たせていただいて、ワクワクドキドキの日々が始まりました。入学式、57名の2期生は、当時まだコロナ禍で、皆マスクをつけていましたが、これから始まる大学生活に期待と不安でドキドキしながらも、キラキラした目をしていました。

1年次の見学実習は、日頃行政の現場の中に立ち入ることは滅多にできませんから、公務員を目指す学生にとってはとても有意義でした。実際に見学実習がきっかけで、その役所を目指した学生もおりました。

2年次、私はチューターとして2期生57名の担任になりました。学生委員も拝命し、一緒にオリゼミに取り組みました。江田島で初めてのキャンプファイヤー。学生と教員が炎を囲みながら輪になって、一人一人が自らの決意を発表しました。オリゼミは大成功。おかげで、翌年のオリゼミ委員の募集時には、1年生から定員を超えた応募がありました。

3年次のインターンシップ。学生が関心のある役所の現場に行き、受験先を決めること、これからの長い闘いへのモチベーションをあげることを第一に考え、全員が自分の目指す役所へのインターンシップに行くことを目標に、皆、公募に果敢にチャレンジして取り組みました。また、インターンシップ報告書・報告会の委員は、1、2年次に目立った活動しておらず、エントリーシートに書くことが見当たらない学生を募集し、19名の学生が手を挙げました。一人一人に役割を課し、それぞれの役割の責任者として活躍したおかげで、立派にエントリーシートを書く準備ができました。また、全員がまほろば館大ホールの壇上で発表を行い、お世話になった企業や役所の方を招いて充実した報告会ができました。インターンシップに行き、モチベーションを高めて見事に難関を打ち破り合格した学生だけでなく、インターンシップに行き、現場を見ることで志願先を見直した学生もおり、役所へのインターンシップは学生にとって貴重な場であることを再認識しました。学生が希望のインターンシップ先に行けるよう支援することが、教員の果たすべき務めであると思います。

4年次、いよいよ就活本番の年。民間志望の学生も、公務員志望の学生も、全員がよく頑張りました。特に希望の公務に就くことができた学生は、相澤先生、山本先生が勉強会を開いて熱心にご指導していただいたおかげで、難関試験の合格を勝ち取ることができました。心より感謝申し上げます。行政は法の執行機関です。法への理解がなければ仕事はできません。公務員試験の受験勉強にとって一番大切な3年の後期に、勉強会に参加することができず、残念ながら専門試験を途中で諦めて希望の役所に行けなかった学生の悔しい想いを忘れることはできません。

「♪・・・今こそ別れ目。いざさらば。」

おかげさまで、2期生4年生（3年次から58名）全員が一人も欠けることなく、笑顔で卒業することができました。学生の成長を間近に見守ることができる、教員としての喜びをかみしめました。また、2期生だけでなく、1期生、3期生を含めたゼミ生との楽しい思い出もたくさん思い出されました。

この4年間公共経営学科でお世話になった皆さまに、改めて心より御礼を申し上げます。

所属学科は変わりますが、3期生のゼミは今年度も続きますし、公共経営学科で出会ったすべての学生に対して、教員として学生の成長を見守り続けたいと思っております。

どうぞ今後とも引き続き、よろしくお願い申し上げます。

2024 年度卒業生 卒業論文等題目一覧

現代ビジネス学科

論文指導：大澤 俊一

21121112	論文	論文	AI 活用による広島県のビジネスの現状と今後
21121122	論文	論文	女子大学生のファストファッションに対する消費行動
21121133	論文	論文	ロコミによる購買行動の変化と効果的なプロモーション
21121136	論文	論文	日本のミュージックツーリズムの現状と将来
21121138	論文	論文	広島インバウンド産業の可能性
21121140	論文	論文	生成 AI が及ぼす影響、その可能性
21121144	論文	論文	100 円ショップの経営戦略
21121147	論文	論文	アイドルがもたらすオタクの消費行動の背景
21121152	論文	論文	ユニクロの経営戦略
21121211	論文	論文	化粧品の購買行動変化と今後 —リキッド消費より—
21121212	論文	論文	広島とスポーツの関連性について
21121214	論文	論文	地元企業の地域貢献活動を効果的に行うための取り組み —東広島市と横浜市の比較—
21121227	論文	論文	TDR が日本のテーマパーク産業においてリーダー企業であり続ける理由
21121247	論文	論文	地方のインバウンド戦略について

論文指導：木村 勝則

21121111	論文	論文	性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について
21121116	論文	論文	USJ の経営回復の考察
21121141	論文	論文	サンフレッチェ広島について
21121146	論文	論文	多様化するビジネスについて
21121150	論文	論文	女性における化粧行動とその在り方
21121210	論文	論文	人口減少社会における地域活性化の取組 —空き家の活用事例に着目して—
21121216	論文	論文	若者の車離れについて
21121225	論文	論文	書店アルバイトによる書店ビジネス
21121235	論文	論文	株について
21121242	論文	論文	新海誠作品の魅力とテーマ探求
21121250	論文	論文	インボイス制度について
21121251	論文	論文	現代の男女の恋愛観について ~恋愛を通しての社会問題~

論文指導：清野 聡

21121102	藤原 早希	フジテレビ月曜9時とTBS火曜10時の恋愛ドラマの比較
21121109	丸山 真由	異業種交流コミュニティと地方の雇用課題解決について
21121110	藤原 早希	Z世代に有効なマーケティングとは
21121113	藤原 早希	推しが人々に与える影響
21121114	丸山 真由	有機野菜を普及する効果的な方法について
21121120	藤原 早希	サッカー新スタジアム設立の経緯と課題
21121121	藤原 早希	時代を映すハウスメーカーの広告表現
21121130	清野 聡	ワークマンとGUの比較
21121142	藤原 早希	食品業界における問題発生時による企業の広報対応
21121143	丸山 真由	これからの働き方を考える:シェアオフィス・コワーキングスペースの需要と戦略
21121153	藤原 早希	実態調査に基づくテレビCM音楽の現状
21121208	藤原 早希	スーパーマーケットにおける廃棄削減の取り組み
21121217	丸山 真由	飲食店業界における持続的人气要因について
21121218	丸山 真由	日本のインバウンド政策の課題-韓国人の視点から-
21121230	丸山 真由	スマホゲームに課金する動機と心理的特性の分析
21121240	藤原 早希	アイドルの地方公演による経済波及効果と被災地支援の可能性
21121246	丸山 真由	アパレルブランドのマーケティング戦略と消費者行動

論文指導：高田 裕

21121101	丸山 真由	ユニクロの経営戦略
21121117	藤原 早希	インバウンド観光と地域活性化 ~広島県の今後の展望と課題について~
21121123	丸山 真由	年金受給額減少に伴う資産運用の重要性
21121126	藤原 早希	スターバックスの経営戦略
21121132	丸山 真由	なぜガチャガチャが再び流行しているのか
21121134	藤原 早希	無印良品の経営戦略
21121135	丸山 真由	宇部市における地域課題について
21121137	藤原 早希	女子大生の金銭感覚-消費行動の分析-
21121151	丸山 真由	現代のSNSマーケティング
21121154	藤原 早希	日本女性の服飾史 ~女性の服装から読み解く時代的・社会的特質と変遷について~
21121203	丸山 真由	ダイソーのビジネスモデルと成功要因
21121228	藤原 早希	なぜLEGOは世代を超えて愛され続けるのか
21121239	丸山 真由	Netflixの現状と今後
21121241	丸山 真由	音楽サブスクリプションサービスの普及とCDの需要
21121244	丸山 真由	韓国エンタメの世界への影響
21121252	丸山 真由	広島県の転出超過の実態と課題

論文指導：立花 知香

- 21121103 博士 博士 時代の変化にともなうプリキュアシリーズのジェンダーの描き方
- 21121119 博士 博士 女子大学生の依存傾向がどんな時に高まるか
- 21121129 博士 博士 SNS コミュニケーションにおける顔文字使用が対人関係に及ぼす影響
- 21121148 博士 博士 女子大学生のキャラクター消費行動から分析するサンリオのビジネス戦略
- 21121202 博士 博士 SNS 疲れが及ぼす一人行動の実態
- 21121224 博士 博士 ディズニープリンセス像の変遷—ジェンダーの視点から—
- 21121232 博士 博士 女子大学生とフェイクニュースに関する研究
- 21121243 博士 博士 女子大学生の”推し”に対する心理的距離感に関する一考察
- 21121253 博士 博士 女子大学生の購買行動に影響を与えるインターネットのロコミについて

論文指導：辻 秀典

- 21121139 博士 博士 職場における男女平等の実現を阻む家事育児負担—日本とスウェーデン—
- 21121149 博士 博士 同性婚を考える—日本とアメリカ—

論文指導：水谷 昌義

- 21121106 博士 博士 任天堂のターゲット層拡大の戦略
- 21121107 博士 博士 漫才とコントのどちらが好まれるのか
- 21121205 博士 博士 平成レトロブームを利用した経営戦略
- 21121206 博士 博士 宮島を取り巻く環境と宮島訪問税の必要性
- 21121215 博士 博士 教師の教育の姿勢が生徒に与える影響
- 21121219 博士 博士 アパレル業界における企業の比較研究
—世界で生き残る日本企業になるには—
- 21121236 博士 博士 自動車のデザインと歴史
- 21121237 博士 博士 石見神楽と広島神楽の比較—現在の神楽のあり方の分析—
- 21121245 博士 博士 日韓の間におけるアイドルの比較と分析
- 21121248 博士 博士 2.5次元舞台をとりまく環境変化
- 21121249 博士 博士 クレーンゲームに憑りつかれる要因

論文指導：山田 耕

- 21121108 博士 博士 グミ市場分析
- 21121124 博士 博士 プロ麻雀「Mリーグ」の影響
- 21121127 博士 博士 Vtuber 市場について
- 21121128 博士 博士 MBTI から見たグループ活動における役割分担
- 21121131 博士 博士 日本のヒット曲の規則性と変化
- 21121201 博士 博士 SNS と、映画・ドラマ市場の関係性
- 21121204 博士 博士 化粧品 CM の内容変化について
- 21121238 博士 博士 スポーツ施設と健康・経済・文化

論文指導：森岡 文泉

21121105	岡山 経済	オタクがもたらす経済効果
21121115	広島 経済	広島の道の駅の調査と考察 ―情報発信と施設の充実を中心に―
21121145	広島 経済	消費行動の変遷―Z世代の特徴と他世代との比較―
21121209	岡山 経済	戦後日台関係の歩み
21121213	岡山 経済	広島経済の歩みと今後の行方
21121220	岡山 経済	コロナ禍によってアニメ業界はどう変化したか
21121221	岡山 経済	日本における低賃金問題と今後の課題
21121222	岡山 経済	企業におけるSDGsのあり方
21121226	岡山 経済	旅館の現状と今後の行方
21121229	岡山 経済	日常生活から見た消費者行動とマーケティング
21121231	岡山 経済	観光客がもたらす経済効果
21121234	岡山 経済	急成長する日本のeスポーツ市場について

公共経営学科

研究指導：相澤 吉晴

21123115	岡山 経済	パーソナルカラーとファッションの融合
21123117	岡山 経済	推し活がもたらす経済効果
21123119	岡山 経済	カラーコンタクトがもたらす印象の変化
21123123	下関 経済	アイドル化するお笑い芸人 ―女性向けアプローチの増加―
21123131	岡山 経済	化粧品業界とSDGs
21123135	岡山 経済	MBTIの相性の妥当性
21123141	中野 経済	バンドの歌詞考察 ―命の重みをテーマにした楽曲の意味とは―
21123153	岡山 経済	キャッシュレス決済の現状と課題について

研究指導：新美 貴英

21123102	岡山 経済	コンセプトカフェの役割について
21123104	岡山 経済	カープ女子が持つチーム愛着と地域に対する愛着との関連について
21123110	岡山 経済	ペットの飼育がもたらす家族関係の変化
21123113	岡山 経済	公共施設の複合化(集約化)による影響について
21123144	岡山 経済	日本化粧品産業の競争力強化に向けた地域市場適応の戦略
21123149	岡山 経済	現代の方言使用
21123155	岡山 経済	現代女性が美容整形を行うきっかけとSNSの影響について

論文指導：安東 直紀

- 20123126 新規事業者が参入しやすい生活圏内商店街の特徴
～三良坂商店街、七日市商店街を比較して～
- 21123109 アニメ映画の聖地巡礼による経済波及効果推計
—劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星(みちしるべ)」を例として—
- 21123130 城郭に着目した地域資源分析モデルの構築
—中国地方の城郭調査と米子城への適用—

研究指導：青木 克仁

- 21123105 日本の若者の生きづらさと居場所づくりについて
- 21123107 西洋美術と宗教画
- 21123112 グリーンコンシューマーを増やすには
- 21123120 気候変動と社会変動
- 21123121 なぜ人は権威に従うのか
- 21123129 再生可能エネルギーの拡大を図るには
- 21123140 水の民営化と社会的ニーズとしての水にアクセスする権利とは調和し得るのか
- 21123143 人種差別とその影響について
- 21123146 動物実験を廃止することはできるのか
- 21123157 持続可能な食生活
- 21123158 戦争と環境

研究指導：澤田 光

- 21123106 親亡き後の障がい者の生活支援について
- 21123118 発達障害児と家族のニーズを把握するために
- 21123124 災害時における要配慮者への支援について
- 21123128 障がい福祉の情報発信について
- 21123133 誰もが利用しやすい二次交通システムの構築
- 21123137 中山間地域の買い物支援

研究指導：幡新 大実

- 21123101 補助金の公益上の必要性要件の起源と展開
- 21123139 地方自治法 232 条の 2 の公益上の必要性の判断基準
- 21123145 地方自治法 242 条の 2 の住民訴訟と戦前の制度
- 21123150 地方自治法 232 条の 2 の公益上必要性とは
- 21123152 住民訴訟で獲得された債権の放棄の適切性について(学説)
- 21123159 住民訴訟で地方公共団体が獲得した損害賠償請求権の地方議会による放棄

論文指導：竹本 知行

- 21123125 下野 隆雄 軍都広島と水道敷設
- 21123126 藤原 千晴 軍都広島の産業革命 ―広島陸軍被服支廠の創業と近代的労働者の誕生―
- 21123132 藤原 隆 鉄道敷設が軍都広島の都市形成に与えた影響
- 21123136 藤原 隆 兵站基地としての軍都広島 ―宇品陸軍糧秣支廠の創業と展開―
- 21123142 藤原 隆 軍都広島における防疫の展開

論文指導：山田 貴子

- 21123103 内田 雅也 祭礼が地域コミュニティの存続に及ぼす影響
―香川県琴平町の榎梨神社例大祭を事例として―
- 21123108 十川 真司 地域資源を活用した山口市のブランディング
―歴史・文化と日常を融合させた観光イメージ戦略―
- 21123114 岡本 隆雄 現実逃避行動の改善に有効なコーピングの検討
―問題焦点型、情動焦点型、回避・逃避型に着目した調査から―
- 21123116 丸尾 隆雄 女子大学生の決済方法選択に影響を及ぼす要因分析
―デジタル時代に安心して消費行動ができる金融リテラシーの向上―
- 21123134 藤原 隆 女性起業家が起業の際に感じた「不安要素」と欲しかった「支援」
―SOERUの受賞者を対象としたインタビュー調査による試論―
- 21123151 藤原 隆 広島県の食の魅力を再発見するガストロノミー体験の価値

研究指導：山本 克司

- 21123111 藤原 隆 憲法22条の人権制約の研究 ～職業選択の自由～
- 21123122 藤原 隆 プライバシーの権利と新しい人権についての判例研究
- 21123138 藤原 隆 ジェンダーに関する判例研究
- 21123148 藤原 隆 表現の自由の制約についての判例研究
- 21123154 藤原 隆 外国人労働者における課題
- 21123156 藤原 隆 報道・取材の自由について ～SNSの拡散に伴う現代メディアの在り方～

2024 年度事業実施報告

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

現代ビジネス学科

1. 「学生表彰」を 2024 年 5 月、10 月の 2 回実施した。
成績、資格取得、その他活動などさまざまな場で顕著な成果を上げ、他の学生の規範となる学生の業績に対してその努力を認めると同時に、更なる成果を期待し表彰した。
2. 「就職活動報告集 2024」を 2024 年 1 月に 200 部作成し、2、3 年生に配付した。
この報告集は、4 年生の就職活動の体験をまとめ、後輩の就職活動の参考に資するためのものである。
3. 「現代ビジネス学科 学会誌(Web 版)」(第 13 号)を公開した。
4. 2025 年 3 月 8 日、卒業式後ガイダンスにて 4 年生の表彰式を行った。
4 年生の中から、成績優秀者、その他活動等で学科教員から推薦があった学生を表彰した。
5. 資格等の学習支援について、対象の検定に合格した学生に検定料の補助を行った。
検定料補助の対象になった学生は、1 年生 1 名、2 年生 3 名、3 年生 1 名、4 年生 1 名であった。

公共経営学科

1. 「学生表彰」を 2024 年 4 月、10 月の 2 回実施した。
成績、資格取得、その他活動などさまざまな場で顕著な成果を上げ、他の学生の規範となる学生の業績に対してその努力を認めると同時に、更なる成果を期待し表彰した。
2. 「現代ビジネス学科 学会誌(Web 版)」(第 13 号)を公開した。
3. 2025 年 3 月 8 日、卒業式後ガイダンスにて 4 年生の表彰式を行った。
4 年生の中から、成績優秀者、その他活動等で学科教員から推薦があった学生を表彰した。
4. 資格等の学習支援について、対象の検定に合格した学生に検定料の補助を行った。
検定料補助の対象になった学生は、2 年生 2 名、3 年生 1 名、4 年生 1 名であった。

以上

執筆者紹介(50音順)

木村勝則	安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科准教授
澤田 光	安田女子大学現代ビジネス学部公共経営学科准教授
高田 裕	安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科講師
水谷昌義	安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科教授
山田 耕	安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科准教授

2024年度 安田女子大学現代ビジネス学会誌 第13号

2025年3月31日発行

発行者 安田女子大学現代ビジネス学会

731-0153 広島市安佐南区安東 6-13-1

代表人 辻 秀典

編集人 水谷昌義